

命と暮らしが安全に守られる社会へ

～未来を自由に描き、実現するための防災まちづくり～

1. はじめに

青森県は、西は日本海、東は太平洋、さらに北は津軽海峡と、三方を海に囲まれています。また、県土の3分の2を森林が占め、世界自然遺産白神山地をはじめ、十和田八幡平国立公園内の十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田連峰や県内最高峰の岩木山など、水と緑が豊かな自然環境を有しています。

本県の豊かな自然環境は、国内最大級の縄文集落跡である三内丸山遺跡を含む世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」が今に伝えたとおり、一万年以上にわたり自然と共に生き、平和で協調的な社会を形成するための礎ともなりました。

2. 本県で近年発生した災害

昨年1月に発生した令和6年能登半島地震では、半島地域の脆弱性が改めて浮き彫りになりました。

本県は県全体が半島のような地形をしており、かつ、近年は災害が頻発していることから、常に災害リスクを想定し、地域の防災対策を「自分事」として捉える必要があると考えています。

1) 令和3年8月の大雨災害

台風9号から変わった温帯低気圧や前線の影響により、本県北部の風間浦村下風呂雨量観測所では、これまでの最大24時間降水量の2倍を超える規模の雨量を記録しました。

この大雨により、下北地域内を通る国道279号では斜面崩壊や落橋等が発生し、一時800名以上の住民が孤立する事態となりました。

2) 令和4年8月の大雨災害

前線が日本海から北日本にかけて停滞した影響

で、津軽地方を中心に激しい雨となり、各地で観測史上1位の雨量を記録しました。

この大雨により、本県西部の鱒ヶ沢町を流れる中村川が氾濫し、家屋や病院等の浸水被害が発生しました。



国道279号小赤川橋の落橋



鱒ヶ沢町の浸水状況

3) 令和6年12月末からの大雪

年末から降り続いた大雪により、青森市、弘前市を含む津軽地方では、1月5日時点において累計降雪量は、過去10年平均と比較し約1.6倍、積雪深は観測史上最大を記録しました。

この雪害で人的被害のほか、道路・鉄道・空路の交通機能が麻痺する事態となりました。

青森県知事 ^{みやした}宮下 ^{そういちろう}宗一郎



3. 「青森新時代」を支える社会基盤づくり

青森県基本計画「『青森新時代』への架け橋」では、【社会資本】の政策テーマにおいて、「インフラ機能の充実・強化」、「防災・減災対策」や「産業・交流を支える社会基盤の整備」など、県民の命と暮らしを守ることを最優先に、社会基盤整備を進めることとしています。

1) 道路ネットワークのミッシングリンク解消

本県の道路ネットワークは、依然として脆弱な箇所が多く、地域活力の維持には、都市相互の連携・補完が不可欠であることから、下北半島縦貫道路をはじめとする高規格道路のミッシングリンクの早期解消や半島地域における道路整備の推進に重点的に取り組んでいます。

2) 流域治水の推進

令和4年8月の大雨で氾濫した中村川では、浸水被害防止・軽減を図るため、河川激甚災害対策特別緊急事業による河川改修を事業期間5年（令和4年度～令和8年度）で実施するなど、流域治水を推進しています。

また、流域治水の考え方などを幅広く県民へ普



流域治水PR動画

及啓発するために、YouTubeで動画を配信しており、特にご当地ダンス&ボーカルユニット「りんご娘」をメインキャストとして制作したPR動画は、流域治水をわかりやすく学べるものになっています。

3) 青森ベイエリアのにぎわい創出

青森駅前の青函連絡船発着場跡周辺では、人工ビーチを整備し、水質浄化、海辺環境の再生や新たな親水空間の創出により、青森ベイエリアの魅力を向上させたことで、多くの県民や観光客が集い、にぎわいを見せています。

4. おわりに

「青森だからできない」ではなく、「青森でもできる」、「青森だからこそできることがある」という自信を深め、県民の皆さまにとって誇れる青森県に変わっていきけるよう、県では、青森新時代の挑戦を始めています。前例や常識にとらわれず、果敢に挑戦する前向きな姿勢で、社会基盤づくりに取り組んでいきます。

この6月には、関係各位のご尽力により、国土強靱化実施中期計画が策定される予定で、また、8月には、一般社団法人全日本建設技術協会の建設技術講習会、現場研修が青森市等で開催されます。

現場研修では、前述の「青森ベイエリア」をご覧いただくほか、来年本県で開催予定の「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」の会場の一つである、青森市総合体育館も視察されると伺っています。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。